

学校教育ビジョン

「自ら考え、行動できる児童の育成」～自分から 自分たちから～

- ・めざす児童像 K心の汗をかき K気付き考え K協働する子
- ・基本方針 学校教育ビジョンの具現化に向け、①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成 の取組を組織的な学校運営及び家庭・地域との連携を通して行う。

| 評価の項目              | 今年度の重点目標   | 具体的取組  | 主担当                    | 現状及び取組状況   | 評価の観点   | 実現状況の達成度判断基準   | 備考   | 判定結果(中間) | 判定結果(最終) | 今後の改善策   |
|--------------------|--|--|------------------------|--|---|--|--|----------|----------|--|
| ①教育課程・学習指導         | 児童一人一人の学力向上を組織的かつ継続的に推進できる体制づくりを通して、安定的な学力向上のシステムを確立する。      | 学力向上のための持続的な組織体制の強化のために、「学力向上ロードマップ」の実施と見直し・改善を進める。  | 学力向上部<br>教務主任          | 昨年度の反省をもとに、円滑な分業の組織を作った。組織的・協動的に各部で取り組み、さらに検証・改善していく。                          | 【努力指標】<br>全教職員が学力向上に向けて、「学力向上ロードマップ」にそって取り組んでいる。            | 「学力向上ロードマップ」に沿った取組について教職員アンケートを取り<br>A 十分に取組んだ<br>B 取組んだ<br>C どちらかというと取り組んでいない<br>D 取り組んでいない             | C・Dの場合は「学力向上ロードマップ」を再検討する。各学調を分析する。教職員にアンケートを実施する。 | A        |          | 学力向上部・学びの基盤部ともに学力向上ロードマップの計画通りにほぼ進んだ。1学期は初めての取組が多く、各部とも土台作りから始めた。各主任の呼びかけもあり、学期の終わりには取組が軌道に乗った。2学期は、各部の取組がさらに充実するように、PDCAサイクルを回し、取り組んでいきたい。                    |
| ②生徒指導<br>※いじめの未然防止 | いじめ問題対策チームを常設し、組織的にいじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。                   | 児童理解の会を毎月行い、情報交換しながら、全教職員で共通理解を図る。アンケートや相談活動を定期的に行い、現状把握と関係づくりに努め、組織的に対応する。                          | 学びの基盤部<br>生徒指導主事       | 「児童一人一人を全職員で育てていく」という意識を持ち、児童理解の会で情報交換を行った。生徒指導の3機能を生かした授業づくりに取り組んでいる。         | 【満足度指標】<br>児童が学校生活を楽しいと感じている。                               | アンケートで「学校が楽しい」と答えた児童の割合が A 90%以上である。<br>B 85%以上である。<br>C 80%以上である。<br>D 70%未満である。                        | C・Dの場合は再検討する。毎学期、児童にアンケートを実施する。                    | A        |          | いじめ問題や問題行動に対して管理職・養護教諭・学担と連携して迅速に対応したため、重大事案になることを防止できた。また不登校児童の出席日数が増えたり欠席日数が減っている現状がある。しかし問題行動が様々な学年で単発的・群発的に生じているため、児童が善悪の判断を正しく行えるよう教員の意識と指導の統一を更に図っていきたい。 |
| ③キャリア教育・進路指導       | 働くことや責任を果たすことで、達成感を感じさせたり、仲間と協力する喜びを感じさせたりすることで、自己肯定感を高める。   | 係活動や委員会では、めあてをもたせ、さらにこまめに活動を振り返る場を設定することで、責任を果たすことや仲間と協力することの大切さを学ばせる。                               | 児童会担当                  | 決められたことではあるが、自主性は不十分である。自主的・協力的な活動ができるように自ら考え、行動できるように良さを認めていく。                | 【成果指標】<br>進んで係活動や委員会に参加する児童が増えている。                          | それぞれの活動等に自ら参加できたと感じている児童の割合が A 90%以上である。<br>B 85%以上である。<br>C 80%以上である。<br>D 80%未満である。                    | C・Dの場合は再検討する。毎学期、児童にアンケートを実施する。                    | A        |          | アンケート結果より、自ら活動等に参加できていると回答した児童の割合が多かった。委員会ごとにイベントも充実していた。課題として、他の委員会のイベントに自ら参加する児童が少ないので、学校全体でのイベントに積極的に参加できるような声掛けを行っていきたい。                                   |
| ④保健管理              | 健やかな成長を促すため、給食において、成長期に必要な食事の量を理解するとともに、適正な量を食べようとする児童を育成する。 | 給食において、適正な量を理解するため、毎食盛りきって配食するよう指導する。  | 保健主事                   | 昨年度までは、各児童の希望で配食量を調整していた。そのため、各児童が適正な量を食べているかどうか、把握することができなかった。                | 【成果指標】<br>適正な量を食べようとする児童が、増加している。                           | 児童アンケートで「適正な量を食べようとする回数が増えた」と答える児童の割合が<br>A 15%以上増加している<br>B 10%以上増加している<br>C 5%以上増加している<br>D 5%未満増加している | C・Dの場合は再検討する。毎学期、児童にアンケートを実施する。                    |          |          | 1学期末アンケートより、全体で7割の児童が「いつも」もしくは「どちらかというと」配膳された量を食べていると回答した。しかし課題として、副菜の残食量が減らないこと、盛りきりができない学級があるため、今後栄養教諭及び担任と協力して、学級活動での指導にとり組み、意識を高めていきたい。                    |
| ⑤安全管理              | 教職員は校舎内外の安全管理と環境整備を行い、児童が自分で自分を守ることができる力を育成する。               | 定期的な安全点検はもちろんのこと、普段から安全面の情報交換と環境整備を図る。また、避難訓練を計画的に実施する。  | 教頭                     | 安全管理や環境整備について、職員室で情報が共有できるようにしている。   | 【満足度指標】<br>管理場所の管理と整備により、児童の安全面が確保できている。                    | 毎月の安全点検により、管理場所の管理と整備を行い、児童の安全面が、<br>A 確保できた<br>B おおむね確保できた<br>C どちらかというと確保できなかった<br>D ほとんど確保できなかった      | C・Dの場合は再検討する。定期的な安全点検調査表と1・2学期末の教職員アンケートを実施する。     | A        |          | 安全点検のみならず、日常から修繕箇所について情報を共有し、速やかに対応することができている。また、避難訓練を実施することで、児童も教職員も防災に関する意識を高めることができたので、今後も継続していきたい。   |
| ⑥特別支援教育            | 児童一人一人のニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服するための適切な指導や必要な支援を行う。         | 全ての子どもが分かりやすく参加できる学び(UDL)を意識した授業、及び支援を要する児童の困り感に応じた指導の工夫を進める。LITALICOトライアルにも参加することで、ICTを活用したUDLを進める。 | 特別支援教育<br>コーディネーター     | 児童の困り感を早期に捉え、気づき票から実態把握している。支援委員会を開き、方針の決定・共通理解をしてきた。担任は学期ごとに計画評価し、支援に取り組んでいる。 | 【努力指標】<br>UDLの実践及び困り感のある児童への特性に応じた支援計画とその改善をしている。           | UDLの実践、困り感のある児童への特性に応じた支援計画と改善が<br>A できた<br>B ほぼできた<br>C あまりできなかった<br>D できなかった                           | C・Dの場合は再検討する。2学期末に教職員にアンケートを実施する。                  | B        |          | 必要に応じて支援会議を開きながらUDLの確認と個別に指導が必要な児童への支援を確認し、授業に取り入れることができた。LITALICOの効果的な使用法については今後の課題とした。   |
| ⑦組織運営・業務改善         | 時間外勤務時間月80時間を超える職員がゼロの業務改善を図る。                               | 運営委員会を中心に各分会がそれぞれに役割を果たし、チームとしての組織化・協働化された学校運営を図る。   | 教頭                     | 年度当初、校務分掌によっては時間外勤務がすでに80時間超えの職員がいるが、仕事の平準化、業務の削減など意識している職員は増えている。             | 【努力指標】<br>各分会を中心に、組織化が推進され、限られた時間内で円滑な学校運営になるよう無理せず取り組んでいる。 | 月の時間外勤務時間が80時間超の職員が<br>A ゼロ。<br>B 1割(未満)いる。<br>C 2割(1割以上2割以内)いる。<br>D 2割以上いる。                            | B・C・Dの場合は再検討する。毎月の勤務時間表で確認し、1・2学期末に教職員アンケートを実施する。  | B        |          | 毎月1、2名、時間外勤務時間が80時間超の教職員がいる。今後、業務の平準化を推進するとともに、校務支援システムやコードモン等のICT活用を促進することで、業務の効率化を進めていきたい。   |
| ⑧研修                | 授業改善に向けた研修会を企画・運営し、教師の授業力向上をめざす。                             | 個別最適な学びと協動的な学びについて学習し、授業改善に取り組み、児童の主体性を育む。   | 学力向上部<br>研究主任<br>若プロ担当 | 研究全体会や研究通信を通して、研究の進め方や研究内容について共通理解して取り組んでいく。                                   | 【努力指標】<br>研究授業や整理会などで話し合われたことを共通理解し、実践している。                 | 共通理解のもと授業改善に<br>A 十分に取組んだ<br>B 取組んだ<br>C どちらかというと取り組んでいない<br>D 取り組んでいない                                  | C・Dの場合は再検討する。2学期末に教職員にアンケートを実施する。                  | A        |          | 個別最適な学びについて研修会を取り入れたり、研究通信で発信したりして共通理解を図ってきた。それぞれのクラスの実態に合わせ、個別最適な学びの実践が進んでいる。1学期の振り返りを踏まえ、さらに2学期日々の実践を進めていく。  |
| ⑨保護者、地域との連携        | 家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指すために学校の様子を発信する。                     | 学校運営協議会やPTAの会合、さらに、授業参観・ホームページ・お便り・連絡メール等を通して、学校教育活動を知らせる。   | 教頭                     | ホームページの掲載回数を増やしたり、連絡メールを利用して、地域の方々にも発信できるようにしている。                              | 【満足度指標】<br>家庭・地域との連携し、開かれた学校となり、学校の様子が十分に伝わっている。            | 学校の様子が<br>A 十分伝わっている<br>B おおむね伝わっている<br>C どちらかというと伝わっていない<br>D ほとんど伝わっていない                               | C・Dの場合は再検討する。1・2学期末に保護者アンケートを実施する。                 | B        |          | 保護者アンケートでは、80%以上の保護者が「学校便り」やホームページ等で学校の様子がわかる」と回答していることから、概ね良好な状況であるといえる。今後、コードモンやコミュニティスクールを活用して、さらに学校の情報を保護者や地域に発信していきたいと考えている。                              |
| ⑩教育環境整備            | 学習に必要な教材や学習環境の整備を図る。   | 学習環境・教材整備に努め、学校予算への関心を高める。   | 総務部<br>予算委員会           | 教材・教具の使い方や整理が不十分な状況が見られる。  | 【満足度指標】<br>教材や教具の管理や整理整頓がされている。                             | 教材・教具の管理と整備整頓が<br>A できた<br>B おおむねできた<br>C どちらかというとできなかった<br>D ほとんどできなかった                                 | C・Dの場合は再検討する。2学期末に教職員にアンケートを実施する。                  | A        |          | 教職員に定期的に声かけをすることにより、教材・器具の管理・整理整頓の意識向上につながることができた。今後も継続した声かけをしていきたい。   |

|         |  |
|---------|--|
| 学校関係者評価 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「児童に委ねる・児童が主役の授業」の授業改善に向けた取組をこれからも推進するとともに、児童の学力向上も目指してほしい。</li> <li>・郷土の歴史や文化の学習を教育課程に意図的に取り入れることで、郷土に誇りをもつ児童を育ててほしい。</li> <li>・教職員が元気に業務を遂行できるように、さらなる業務改善を推進してほしい。</li> </ul> |
|---------|--|